

◇ 行政視察報告書 ◇

〈提出者氏名〉 八木 信樹

委員会名	文 教 厚 生 常 任 委 員 会	
委員名	[委員長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委員] 河野 啓介	[委員] 若井 睦巳 [委員] 木村 裕 [委員] 吉田 尋子
視察先	愛知県長久手市	愛知県安城市
視察日	令和6年10月28日(月)	令和6年10月29日(火)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前9時30分～午前11時30分
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールについて ・ラーケーションの日について 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部学校給食共同調理場について
行政視察を終えて	<p>全国で不登校児童が、29万9048人(2022年度)と年々増加している中、子ども達の教育支援などをどのようにされているのか調べる為、人口6万1千393人(1970年代に比べて5.3倍増加)、平均年齢40.2歳と全国で平均年齢が1番若い市であり、市内には、小学校6校(生徒数4449人)、中学校3校(生徒数2083人)がある長久手市のフリースクールとラーケーションの日について行政視察しました。</p> <p>まず、長久手市教育振興基本計画の基本理念では、人間力を育み、いつまでも健やかで夢と生きがいを持ち、成長できる人づくりのもとに3つの教育方針があり、1つめが、自然の大切さ、命の尊さを学び、自然との共生。2つめが、地域で家庭や学校を支え、関わり合いながら、向上心をもって、ともに成長。3つめが、多様な人々の存在や価値観を認め合い、まざって暮らすことを教育方針とされている。</p> <p>基本目標では、個に応じたきめ細やかな教育の充実の不登校児童生徒への支援の充実があり、主な取り組み内容として適応指導教室の充実。家庭にいる不登校児童生徒への適切な支援の実施。不登校傾向児童生徒</p>	<p>本市では、園部学校給食共同調理場と八木学校給食共同調理場が老朽化しているため、施設を統合した新たな学校給食共同調理場の施設整備が計画されている。そうしたことから先進地視察として愛知県安城市の北部学校給食共同調理場整備事業を視察しました。</p> <p>安城市では旧調理場の老朽化や経年劣化と共に施設整備の能力不足、配送時間と配送車両や学校給食衛生管理基準等への対応、食物アレルギー対策などを踏まえて学校給食共同調理場整備基本構想を平成27年から28年に策定され、翌年から基本設計、実施設計、用地交涉及び取得、造成工事、建築工事を経て令和3年9月に運用を開始されました。総事業費は、41億5490万3409円と大部分が建設工事、外構工事であるが、そのなかにはアレルギー調理室も整備されている。また、備品・消耗品として配送・事務用品、食器等も総事業費に含まれていました。</p> <p>北部学校給食共同調理場施設概要では、建物が2階建てで、2階部分は調理場を見学できるスペースがありました。少し気になったのが、1階調理場から天井まで、かなりの高さがあり、清掃やメンテナンスの維持管理に費用がかかるように感じました。また、調理場</p>

の早期発見に取り組み、令和5年度の実績と成果では、保護者との情報交換会の実施を年3回。学校とスクールソーシャルワーカーの連携による家庭訪問等の支援。スクールソーシャルワーカーによる小中学校への定期訪問をされてきました。

平成13年8月にN-ハウスあい（教育支援センター）を市民野球場内管理棟に適応指導教室として開設し、支援体制を整えていくが、保護者が車で送迎するなど子ども達が通いづらいことから、令和4年4月に市内巡回バス（N-バス）の発着場所がある市役所西側に移転されました。

校内フリースクールの設置状況では、令和4年度から中学校が3施設、令和5年度から小学校が1施設を開設。相談員1名を配置し、引きこもり・不登校児童対象、本人並びに保護者の意思があり、学校で必要と認められた児童の居場所づくりをしている。

小学校の開所時間は、8:30から13:30内を基本とし、支援員又教員が不在の場合は利用できない。また、13:30からは、自分の学級で過ごすか保護者に迎えに来てもらい帰宅することになっている。中学校では8:30から15:15内、好きな時間に来て帰れるようになっている。生徒が少しでも登校できるようにされており、生活習慣を身に付けたり、過ごし方を考えて生活できる場所としている。

活動内容は、児童が支援員と相談し、自身で決めてよいことになっており、自主学習や読書など自分のペースで過ごされている。

令和6年度からは、イオン長久手内のホールにて学校になじめない児童生徒を対象にした校外フリースクールを開設し、気軽に通える場所として子ども達の新たな居場所を提供すると共に、保護者の悩み相談会も同時間に実施しているとのことでありました。子ども達が心にゆとりをもって学校生活を送れるよう居場所づくりを積極的に取り組まれている先進事例でした。

次に、愛知発、新しい学びマーケットの日についての取り組みを伺いました。

では、ドライシステムが導入され。床が乾いた状態で作業ができるよう施されており、細菌の繁殖防止ができるようにしてありました。調理能力は1日1万食、アレルギー除去食150食対応（卵・乳除去食）でありました。施設運営は、公益財団法人安城市学校給食協会へ委託されております。

安城市の給食に関する取り組みでは、地産地消を取り入れ、「愛知をたべる学校給食の日」に合わせた地元産食材の使用や地元産食材を増やした献立の作成などに取り組まれておりました。また、令和5年9月からは、給食費の無償化を実施され、安城市内小中学校に通い給食を喫食する児童生徒には、給食費を徴収しないことになりました。

また、そのなかでアレルギー等により給食を長期欠食する児童生徒や市外小中学校等へ通う児童生徒には、給食費相当額の補助金を支給されているとの事でした。

特に感じたことは、アレルギー除去食に対応した調理室と厨房内の導線がしっかりとできていることで、作業の流れがしやすく、アレルギー除去食に違う食材が混入することを防げる環境が整っておりました。本市でも子どもの食の安全安心のために、こうした方式がとれた施設整備が必要であると感じました。

この取り組みは、家庭での主体的な学び・体験的な学びを応援するために令和5年度から設けられました。

子どもの学び（ラーニング）と保護者の休暇（バケーション）を組み合わせた平日の校外学習活動。年に3回（次年度繰越なし）まで取る事ができ、その日は学校に登校しなくても欠席とはならないとの事であります。家庭で子どもと一緒に計画し、平日の保護者の休暇に合わせて親子で体験や探求の学び・活動ができる内容でありました。

総務省の調べでは、土曜日に働いている方が約45%、日曜日に働いている方が約30%おられ、休みの日に子供と一緒に過ごす事が難しいご家庭が少ない事からも平日に子供と一緒に学び、活動することができるバケーションの日ができたそうです。

土日に休みにくい家庭で子どもとのふれあいが増える制度でありました。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 樋口 浩之

委員会名	文教厚生常任委員会	
委員名	[委員長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委員] 河野 啓介	[委員] 若井 睦巳 [委員] 木村 裕 [委員] 吉田 尋子
視察先	愛知県長久手市	愛知県安城市
視察日	令和6年10月28日(月)	令和6年10月29日(火)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前9時30分～午前11時30分
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールについて ・ラーケーションの日について 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部学校給食共同調理場について
行政視察を終えて	<p>長久手市フリースクールでは小中の校内及び校外に設置されており、その特徴は児童、生徒の自主性の尊重に重きを置くところにある。特に校外フリースクールの運営はユニークで、イオン内でのフリースクール運営や、既存の住宅を市が買い取り、教育の一環として、子ども達が計画を立て、大工さんと一緒になって改装を進めている事例もある。</p> <p>一律な既存の教育体制に馴染むことができず、学校に行くことが難しくなった子ども達に、学校で学ぶことへの意欲を掻き立てる素晴らしい試みであると感じた。</p> <p>またラーケーションについては、県からの要請で進めているとのことで教育現場においては賛否が分かれているように感じた。</p> <p>フリースクールの「成果」について質問があったが、学校教育における成果について、我々大人は子ども達の成長など未来について主眼を置きがちであるが、フリースクールの事例にあった「大工さんとの改修の体験」や、ラーケーションでディズニーランド旅行などの報告がある中「お母さんと一緒に料理をした」といった事例を知ると、子ども達にとっては未来も大切であるが、</p>	<p>安城市の学校給食共同調理場について、令和3年に使用開始されたとのことで、最新鋭の設備と運営について視察することができた。調理設備について、特に目新しいものはなかったが、運営については作業ごとに床の色分けがなされていたり、アレルギー対応のため特別室を設けたり、などの工夫がなされていた。</p> <p>既存の調理場と比較して良くなった点、また改善が必要な点について質問したところ、作業空間が広がったことで、作業員の動線が確保されたことが良くなった点で、空調に関しては改善されたが、冷房が十分に行き届かない箇所もあり、スポットクーラーなどで対応しているとのことである。</p> <p>設計者の視点としては、見学のための通路を上階に設けることで、作業場全体を見渡すことが可能なるが、天井高が高くなることで室の容積が大きくなり、空調や換気にかかりの負荷が、かかるように見受けられた。また空調負荷におけるランニングコストだけでなく、見学通路を設けた分で規模が大きくなり、建設コストの増大にもつながる。安城市の見学頻度は年に15件程度とのことであり、見学部分のコストと効果のバランスについて疑</p>

	<p>今日一日を子どもとして楽しむということも、とても重要であり、本市の教育においても、多様な視点で教育に向き合うことが必要という気づきを得た視察であった。</p>	<p>間を感じた。当市の共同給食調理場においても注視しなければならない部分である。</p>
--	--	---

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 河野 啓介

委員会名	文教厚生常任委員会	
委員名	[委員長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委員] 河野 啓介	[委員] 若井 睦巳 [委員] 木村 裕 [委員] 吉田 尋子
視察先	愛知県長久手市	愛知県安城市
視察日	令和6年10月28日(月)	令和6年10月29日(火)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前9時30分～午前11時30分
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールについて ・ラーケーションの日について 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部学校給食共同調理場について
行政視察を終えて	<p>長久手市。面積、21.55 km²。人口、約6,1000人。 1970年に比べ2020年の人口は5.3倍。40.2歳と、平均年齢が全国で一番若い。人口急増のデメリットとして、住民に「地域」の意識が希薄となっている、とのこと。個に応じたきめ細かい教育、を心がけているが、年間30日以上欠席者数は年々増加し約30名。</p> <p>校内フリースクールの取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成13年から適応指導教室「N-ハウスあい」を設置。 ・令和4年度以降、校内フリースクールを設置。 <p>引きこもりや学校に来れない児童生徒の居場所作り。</p> <p>学校で時間が過ごせるという体験づくり、「家から出られた」「変わりたい」という気持ちに応えるもの。</p> <p>活動は自分たちで相談して決める、自分のペースで過ごせる、やりたいことができる、ということで、教室に入れない子ども達が学校に通うことのできる空間としている。</p>	<p>安城市。面積、86.01 km²。人口約85,600人 (園部町面積、102.78 km²、人口約15,500人。八木町面積、49.56 km²、人口約6,700人)</p> <p>「北部」「中部」「南部」の3箇所に共同給食調理場がある。</p> <p>「北部」は、小学校11校、中学校4校を担当(全市小学校21校、中学校8校)。 配送は、6台の車で10時15分から11時30分までの間に完了する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年から28年に共同調理場整備基本構想策定。 <p>ア施設設備の老朽化、経年劣化 イ施設設備の能力不足 ウ配送時間、配送車両 工学校給食衛生管理基準などへの対応 才食物アレルギー対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年から令和3年の期間に、基本設計、実施設計、用地交渉及び取得、造成工事、建築工事。 ・令和3年9月に運用を開始。 ・総事業費41億5490万3409円。 (基本設計 約7562万円、用地費 約3億920万円、工事費 約27億6765万円、

	<p>一部の教員からは「教えなくてもよいのか」と心配の声もあるが、担当指導員は資格不問、むしろ教員ではない方が良い、プログラムに沿っての強制がないことが重視されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年度からはイオン長久手に校外フリースクールを開設。 <p>保護者の悩み相談会も同時間に実施。</p> <p>多様な取組を行うことで、生徒・児童にさまざまなチャンスを与えることをめざしている。</p> <p>「ラーケーションの日」の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県の事業として開始 ・家庭での主体的な学び・体験的な学びを応援する活動。 <p>子どもが保護者等とともに、平日に、校外（家庭、地域）での体験や探究の学び・活動を自ら考え企画して実行できる日。計画を立て届け出ると、年に3日まで欠席扱いにはならず、保護者等の休暇にあわせて取ることができる。</p> <p>家庭が教育の視点を持つため、今までの遊びや旅行よりも有意義な時間になっているケースも感じられる、とのこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では2割、中学校では1割弱程度の取得。 ・知事の主導のもと県として推し進めている。知事が変わるとどうなるのか不明。 ・取得後の報告の義務づけはなく、とりたて「ラーケーション」と名付けて手続きを踏む必要に関して疑問視する意見もある。 	<p>備品・消耗品 約9億3569万円、その他 約1674万円)</p> <p>学校施設環境改善交付金 令和元年2億400万円、令和2年2億9900万円。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理能力は1万食（現在は9049食を調理）。 ・職員は、事務職員（含 栄養士）5名、施設作業員3名、給食調理職員33名。 ・臨時職員は、栄養士1名、施設作業員1名 給食調理員49名（午前34名 午後15名） ・アレルギー除去食対応（卵及び牛乳）のための調理室（150食対応可能）設置。 ・安全基準に配慮しているため、広すぎる、移動が大変、との声もある。 ・令和5年9月からは給食費の無償化。 <p>アレルギー等により給食を長期欠食する児童生徒、市外小中学校等へ通う児童生徒には、給食費相当額の補助金を支給。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2階通路が見学場所として機能している。
--	---	--

◇ 行政視察報告書 ◇

〈提出者氏名〉 若井 睦巳

委員会名	文教厚生常任委員会	
委員名	[委員長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委員] 河野 啓介	[委員] 若井 睦巳 [委員] 木村 裕 [委員] 吉田 尋子
視察先	愛知県長久手市	愛知県安城市
視察日	令和6年10月28日(月)	令和6年10月29日(火)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前9時30分～午前11時30分
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールについて ・ラーケーションの日について 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部学校給食共同調理場について
行政視察を終えて	<ul style="list-style-type: none"> ・校内フリースクールとして、「ほっとルーム」や「スマイルーム虹」などの愛称をつけて設置し、児童が家から外に出られるように、居場所を提供するとともに、教室に入れない児童が学校に通うことのできる空間を確保する取り組みがなされている。活動内容は、児童自身が決めてよく、自主学習、読書、ぬり絵、お絵描きなど支援員と対象児童で相談、話し合いながら決めていくとのことでした。 ・校外フリースクールとして、民間の商業施設を利用したフリースクールも、令和6年度から実施されている。 ＊先進的な取組であり、学ぶべきところも多くあると感じた。南丹市においても、研究していく必要があると感じた。 ・ラーケーションの日については、親の経済状況により経験の格差が生じるのではないかと感じていましたが、体験格差などはないとのことでした。また、ラーケーションの日は、愛知県全体での取り組みということで、「休み方改革」プロジェクトの中で生まれたものであるとのこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部学校給食共同調理場を視察。ここは令和3年9月に運用を開始された新しい施設です。総事業費は、約41億円で、調理能力は1万食という大規模なものです。調理場は、2階の窓からか見下ろすかたちで見ることができ、そのためか、大変天井の高いものとなっている。 ・学校給食衛生管理基準の中で努力事務となっている「ドライシステム」を導入し、床に水が落ちない施設・設備、機械・器具を使用し、床が乾いた状態で作業できるようにしている。こうすることで、細菌の繁殖を防止し、また床からの跳ね水による食品の汚染も防止でき、また、長いゴム前掛けや長靴の必要がないことから従事者の身体的負担軽減にもつながるとのことでした。 ・南丹市では、園部と八木にある共同調理場が老朽化しているため、二つの調理場を一つにまとめた新しい共同調理場を建設する計画が進んでいる。それに対する議論の参考としたい。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 木村 裕

委員会名	文教厚生常任委員会	
委員名	[委員長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委員] 河野 啓介	[委員] 若井 睦巳 [委員] 木村 裕 [委員] 吉田 尋子
視察先	愛知県長久手市	愛知県安城市
視察日	令和6年10月28日(月)	令和6年10月29日(火)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前9時30分～午前11時30分
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールについて ・ラーケーションの日について 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部学校給食共同調理場について
行政視察を終えて	<ul style="list-style-type: none"> ・市内6小学校、4,449人。3中学校、2,083人。 ・適応指導教室(N-ハウス)を平成13年に開設。通所者は、小学生11人、中学生29人。 ・校内フリースクール設置校は、小学校1か所、中学校3か所。引きこもり・不登校児童が対象。 ・フリースクール指導員は、小学校・中学校各1校に、市単費で1名配置。未配置校は、教員でやりくりしている。 ・家庭以外での居場所の提供。教室との行き来も可能。やる内容は自由。 ・イオン長久手の協力を得て、月2回校外フリースクールを開設。 ・ラーケーションは、県方針に基づき実施。名古屋市を除き、県内全市町村が実施。 ・「県民の日 学校ホリデー」事業で、県内各市町村が、11月22日または25日を学校休校日とし、家庭・地域での体験的学習活動の日としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当校数は、小学校11校、中学校4校で、9千食を提供。(南部施設も同程度の提供数。)。配送時間は、15分程度で、配送は外部委託。 ・アレルギー除去食は、月に卵2回、乳2回の合計4回。北部にはアレルギー食調理室があり、南部地域も含めて食を提供。提供数は、卵約70食、乳約30食。卵・乳以外のアレルゲンには対処していないため、これらの児童生徒は弁当等で対応。 ・給食無料化を令和5年9月から実施。6年度の当初予算では、9億円を計上し、従来の給食費相当分を単費で補っている。またアレルギー等で欠食する場合は、給食費相当額を対象者に支給。 ・事業委託は、従来から行われていたが、平成28年度から、学校給食に特化した公益財団法人安城市学校給食協会に委託を行っている。 ・視察当日は、地元産食材を使用する「愛知を食べる学校給食の日」だったので、地元産のチンゲンサイを使った給食が提供された。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 吉田 尋子

委員会名	文教厚生常任委員会	
委員名	[委員長] 八木 信樹 [副委員長] 樋口 浩之 [委員] 河野 啓介	[委員] 若井 睦巳 [委員] 木村 裕 [委員] 吉田 尋子
視察先	愛知県長久手市	愛知県安城市
視察日	令和6年10月28日(月)	令和6年10月29日(火)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前9時30分～午前11時30分
調査事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールについて ・ラーケーションの日について 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部学校給食共同調理場について
行政視察を終えて	<p>長久手市は名古屋市の衛星都市として、1970年に比べて2020年の人口が5.3倍の約6万人に増加。平均年齢が40.2歳と、平均年齢が全国で一番若い市とのことです。年少人口も大変多く、学校も南丹市に比べてかなり大規模です。先進的な以下の事柄について研修しました。</p> <p>①校内フリースクールの取組について 平成13年から実施している適応指導教室「N-ハウス あい」に加えて、学校内に「ほっとルーム」などの名前のついたフリースクールを令和4年度から設置し、引きこもりや学校に来れない児童生徒の居場所作りをしています。</p> <p>活動は自分たちで相談して決めるとしており、教室に入れない子ども達が学校に通うことのできる空間となっています。</p> <p>6年度からはイオン長久手に校外フリースクールを開設し、保護者の悩み相談会も同時に実施しています。</p> <p>多様な取組を行うことで、子どもにさまざまなチャンスを与えることができ、全ての子どもが大切にされる先進的な事例でした。</p>	<p>安城市では旧調理場が老朽化したことから、平成27年～28年に共同調理場整備基本構想を策定されました。その後平成29年から令和3年の期間に、基本設計、実施設計、用地交涉及び取得、造成工事、建築工事を経て令和3年9月に運用を開始されたところです。安全安心な給食を届けるために、長期にわたり様々な検討をされたことがわかりました。</p> <p>総事業費41億5490万3409円。調理能力は1万食という大規模な調理場です。</p> <p>アレルギー除去食対応(卵及び牛乳)のための調理室を別に設置されるなど、細部までの配慮を感じました。</p> <p>又、令和5年9月からは給食費の無償化も始まっています。アレルギー等により給食を長期欠食する児童生徒、市外小中学校等へ通う児童生徒には、給食費相当額の補助金を支給。子どもを核にまちづくりを進める</p> <p>「ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 安城」の思いが伝わってきました。</p> <p>南丹市では、園部と八木にある共同調理場が老朽化しているため、2つの調理場を1つにまとめ新しく建設する計画が進んでいます。本市においても、安心安全で美味しい給食を</p>

	<p>南丹市も教育支援センター「さくら」を運営していますが、広大な市域の状況を考えると、さまざまな形での取組の研究をしていくべきと感じました。</p> <p>②愛知発の新しい学び方「ラーケーションの日」の取組</p> <p>家庭での主体的な学び・体験的な学びを応援する活動です。子どもが保護者等と共に、平日に、校外で、体験や探究の学び・活動を、自ら考え、企画して、実行できる日です。計画を立てて、届け出ると、年に3日まで欠席扱いにはならず、保護者等の休暇にあわせて取組むことができます。県として押し進めているとのことでした。これはなかなかハードルが高い取組ですが、新しい発想の画期的なものと感じました。</p>	<p>届けることのできる調理場となるよう委員会としても注視していくべきと考えます。</p>
--	---	---